

心の輪12R



『「あっ、トトロの森だ！」という資料を通して、
「自然との関わり方」について考えました！



「自然を大切にすること＝自然に感謝すること」だと私は思う。私は自然の恵みに感謝し、大切にしていけることが重要だと思う。そして、自然を大切にするために森の近くで火遊びやポイ捨ては止めて欲しいし、私も絶対にしない。これからは、自然に感謝していきたい。

たとえ人間でない動物や植物にでも、敬愛しなければならないと思った。自然を踏み台にして人間がどんどん発展するのではなく、互いに伸ばし合っていけたらいいなと思った。

地球全体から見るか、老人や少年から見るかによって、人の心や思い、行動が変わっていき、老人や少年の行動は、相手を思いやることにつながることが分かった。

自然を大切にすることとは、当たり前だと思いました。植物や動物が人間を生かしてくれているので、人間も恩返しをしなければいけないと思いました。

自然を大切にすることで、自分たちの利益にもなるし、植物や動物を守ることににもなるので、自然を大切にすることは大切だと思った。また、老人や少年の考えは、「自分たちの仲間のように、大切に当然」という感じだけど、「ポイ捨てをしない」などの自然を大切にすることというのは、後世に残すために頑張っているというような感じで、少し考え方が違うなと思った。

自然を大切にすることとは、自然を後世に向けて守ることと、自然とのふれあいを大切にすることだと思ふ。ポイ捨て禁止、火の使い過ぎ禁止、植物を蹴らないなどのことは、人が必ず守ることだと分かった。

地球環境保全の意識の高まりとともに、人間生活と自然との調和、共存を目指す考え方が広まっている。今後も、自然の恩恵を享受していくために、私たちはどうすればよieldろう。

コウノトリ野生復帰プロジェクト

かつて日本の多くの地域で見られたコウノトリは、戦後、兵庫県豊岡市など一部の地域でしか見られなくなった。

減り続けるコウノトリを救うため、豊岡市では昭和40(1965)年から人工飼育を始めた。

待望のヒナが誕生したのは、人工飼育の開始から25年目の平成元(1989)年。その後、コウノトリの飼育下増殖が軌道に乗り始めると、コウノトリをもう一度野生に帰すことが現実のものとなってきた。

豊岡市では「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を進めている。コウノトリの野生復帰は、単にコウノトリが生息できる豊かな環境を再生、創出するだけでなく、人と自然との関係を再生、創出することを目指すものである。

平成17(2005)年、最初の放鳥が行われ、現在では70羽を超えるコウノトリが豊岡の空を舞っている。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.117より引用

共に生きるものとして、動物も植物も一生一緒に生きなければいけないから、大事にしなければいけない。今、大雨とかで被害に遭っている人たちにとっても同じ気持ちで、水や食べ物とかのお裾分けをしたりするのに、同じように今日考えたことを思い出しながらできたらいいなと思った。